くまざさ

第49号
発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会
発行日
平成18年8月12日
印刷所
藤田印刷㈱

国公立大へ159人 入学後、生徒を伸ばす！

今春の大学入試において本校は国公立大学のべ合格者数159名を達成しました。これは単純比較で全道4位、間口数の違いを考慮した修正比較で全道2位という素晴らしいもので（表1参照）、卒業生の2人に1人以上が現役で国公立大学に合格したことになります。本校は平成12年より進学実績の低迷を打破すべく、道内外50校以上の大学が一堂に会して個別相談会を実施する「統一学校説明会」や、生徒による「授業評価」等、大規模かつ斬新な学校改革に真摯な姿勢で取り組んで参りましたが、ここへきてそれがようやく結実した感があります。

現状を見る限り、まだまだ質量共に充実した内容であるとは言い難いものがありますが（表2参照）、今後も本校の進路指導理念である「志を高く持ち、易きに流れない」（これは90余年の歴史と伝統の中で脈々と受け継がれてきた精神を平成14年にまとめたものです）を常に念頭に置き、東大・京大・医学部医学科を中心とした超難関校への受験を積極的に推進、保護者・同窓生・地域の期待に応え、次代を担う優れた人材の輩出に全力を尽くす所存です。

地域経済に暗い影を落とす慢性的な不況や、近年の入学生の顕著な学力低下等、現在本校を取り巻く環境には非常に厳しいものがありますが、決して逆風にひるむことなく「入学後生徒を伸ばす」ことの出来る学校であり続けたいと考えています。同窓生の皆様の変わりませぬご支援をお願い申し上げます。

湖陵高校進路指導部長（湖陵32期）
HP「湖陵同窓会」管理人
天内　優

表1　平成18年道内進学校現役国公立大のべ合格者数ランキング

順位	学校名	合格者数	学級数	学級あたり	修正順位
1	札幌東	194	9	21.6	1
2	札幌北	174	9	19.3	4
3	札幌西	161	9	17.9	6
4	釧路湖陵	159	8	19.9	2
5	帯広柏葉	156	8	19.5	3
6	函館東	133	7	19	5
7	札幌南	126	9	14	14
8	北見北斗	123	7	17.6	7
9	旭川東	121	7	17.3	8
10	北広島	119	9	13.2	16
11	大麻	117	10	11.7	20
12	札幌旭丘	114	8	14.3	13
13	札幌手稲	103	8	12.9	17
14	札幌開成	102	9	11.3	21
15	小樽潮陵	101	8	12.6	18

表2　平成18年主な国公私立大学別合格者数一覧

大学名	現	浪	大学名	現	浪	大学名	現	浪
小樽商科大学	5		釧路公立大学	22	2	北海道医療大学	14	5
帯広畜産大学	6	1	札幌市立大学	13	1	天使大学	3	1
北見工業大学	11		札幌医科大学	8	1	國学院大学	3	
北海道大学	13	6	名寄市立大学	10		専修大学	5	1
北海道教育大学旭川校	3		横浜市立大学	3		中央大学	4	3
北海道教育大学釧路校	5	1	都留文科大学	3		東京農業大学	6	3
室蘭工業大学	5	2				日本大学	9	
弘前大学	16	1	藤女子大学	12	2			
岩手大学	3		北星学園大学	13	3			
茨城大学	3	1	北海学園大学	15	5			

目次

湖陵生の“しごと”……2頁
支部だより……3頁
「誠愛勇から」湖陵8期生の巻　4.5頁
校歌雑感・ふるさとカルタ……6頁
学園だより……7頁
総会当番期より・編集後記……8頁

湖陵同窓会HP　http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/

「湖陵生の〝しごと〟」（その1）

市立釧路総合病院　看護師　笠倉由実子さん

（平成11年卒、湖陵51期）

多くの卒業生が、学舎から旅立ちました。今の生徒たちは、進路について何を考えているのでしょうか？まずは大学をはじめとする進学でしょう。その先、つまり将来の仕事についてどう考えているのか、「くまざさ」編集会議でも話題となりました。そこで、今号から、生徒たちにとって、興味のある仕事に、現在ついている先輩にスポットをあててお話しをお伺いすることにしました。今回は、男女を問わず、希望の多い看護師を取り上げてみました。

笠倉さんが、進路について真剣に考えたのは高校3年生になってからだそうです。「祖母が入院し、福祉関係の仕事に興味がありました」と笠倉さん。結局、資格のことを考え、北見市の日赤看護大学に進学しました。大学に入ると、保健師の資格がとれ、また、コースによっては助産婦にもなれます。

最近の進路では、看護師をめざす生徒が多く、笠倉さんの女子の同級生16人中、ほぼ半数が看護系をめざしていたそうです。また、男子も含めて多くの同期生が、市立釧路総合病院に勤務しているとのことです。

さて、4年間の大学生活で、実習も含めてじっくりと学んだ笠倉さんは、地元の市立釧路総合病院を希望しました。面接の際、希望部署を聞かれたので、「外科系」と答えたところ、16病棟（心臓外科・眼科）に配属となりました。

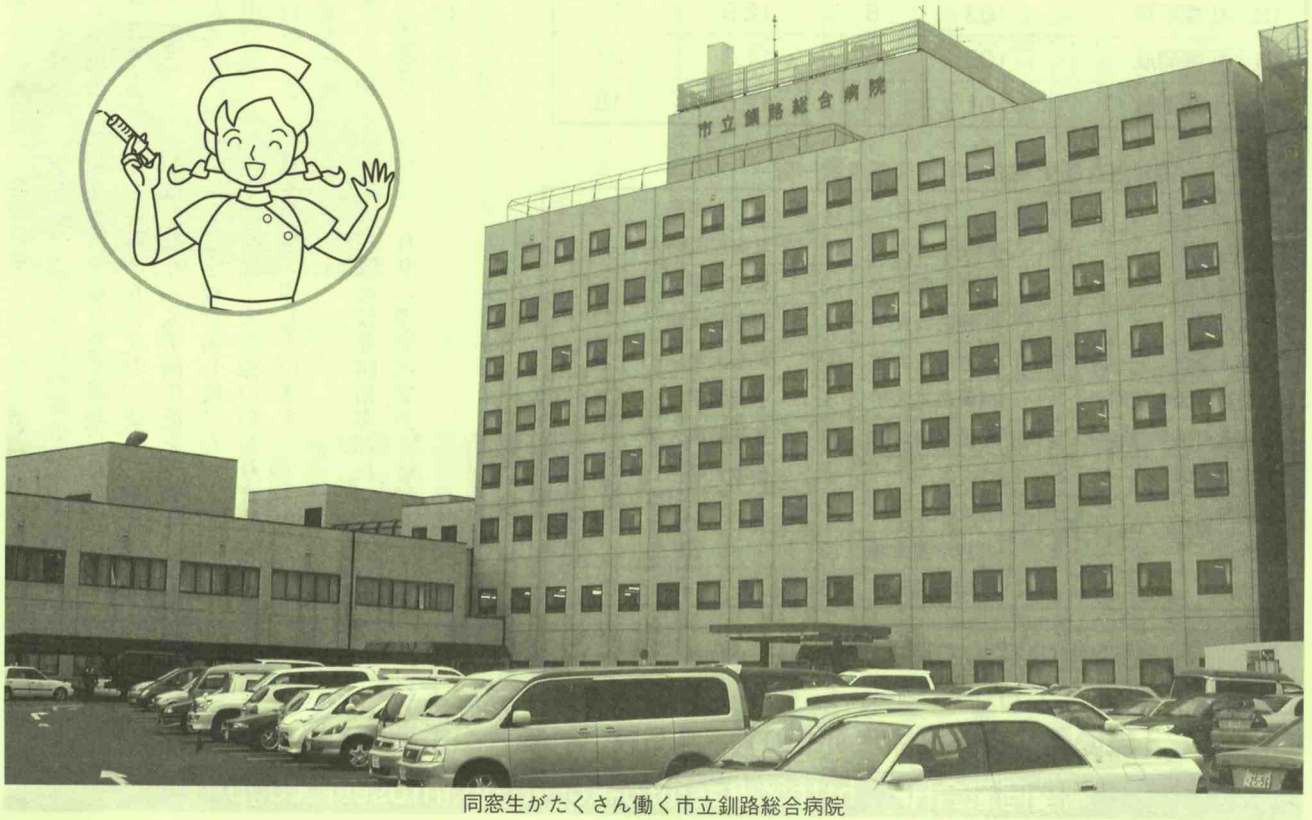
1年目は、「（学校とは違う）病院の雰囲気にとまどいの連続で、先輩に助けられました」、現在は4年目、「ちょっと仕事がわかってきました」と照れながら笠倉さんは話します。

看護師を目指す生徒たちにとって、高校時代に必要な勉強は？と聞いてみました。笠倉さんは、「薬や点滴の投与の際、瞬時に計算を求められますので暗算能力。それと、報告書などを書く場面が多いので、文章力、もちろん化学や生物の基礎も必要です」とアドバイスしています。

次に、看護師になってよかったことは？と質問しました。これに対しては、「ほかの20代のみなさんと比べて、人の生死にかかわる場面など、なかなか得られない体験をできます。日々感謝しています」と笠倉さん。さらに、理想の看護師像を尋ねてみました。

「先輩たちは、いろいろと経験して深みのある仕事をしています。私もさまざまな部署で経験を積んで知識を増やし、相手のことを思いやる看護師になりたいです」と話していました。

―聞き手　星　匠（30期）―



同窓生がたくさん働く市立釧路総合病院

札幌湖陵会

第20回札幌湖陵会の定期総会と懇親会が7月1日、札幌市中央区青木ビルのエンペラーで開かれ、300人を超す同窓生が出席しました。

総会では、物故会員に黙祷を捧げたあと、全員で校歌を斉唱しました。花田孝麿会長（湖陵17期）があいさつしたあと、釧路湖陵高校の数馬田敏校長（同）、釧路湖陵同窓会の曽宇恭久副会長（同21期）が、湖陵高校の現状や8月12日に釧路湖陵同窓会の総会を予定していることなどを述べました。また、役員改選では花田会長が、「今後の同窓会を考え、若い世代にバトンタッチしたい」と会計監事の菊地克保さん（同13期）を除き、全員が交代する新役員案を提案、了承されました。

懇親会では、湖陵のストラップが販売されたり、同窓生によるステージが繰り広げられ、時間の経つのも忘れて、学生時代の思い出に花が咲いていました。

なお、当日の総会資料には、昭和62年、札幌湖陵会設立に東奔西走した西條正人さん（釧中26期）の「創設のころ～20年によせて～」が寄稿され、発足までの苦労話が掲載されていました。

新役員は次の通り（敬称略）。

▽会長　伊藤拓摩（湖陵21期）▽副会長　今井俊次（同）、氏本順子（同22期）▽幹事長　山崎光裕（同21期）▽副幹事長吉田　ひとみ（同）▽会計　荒田淑子（同）

東京湖陵会

「東京湖陵会」（板本登会長・湖陵16期）の総会と懇親会が6月17日、東京都新宿区の日本青年館で開かれました。総会には釧中会や湖陵高校の出身者、約100人が参加、釧路湖陵同窓会の栗林延次会長（湖陵17期）をはじめ、来賓とともに、学生時代の思い出やふるさと談義に花を咲かせていました。

今年度の総会・懇親会の幹事は湖陵23期（1971年卒）でした。はじめに板本会長があいさつしたあと、栗林会長、釧路市東京事務所の岩隈敏彦所長が祝辞を述べ、また、釧路湖陵高校の数馬田敏校長（湖陵17期）が、「昨年度は国公立大学合格率が310人中159人と道内の進学校でもトップクラスでした」と報告した。懸案だった会の名称は、投票により「東京湖陵会」に決まり、役員改選では板本会長をはじめ、役員全員が留任しました。

懇親会は、釧中会の金井富一会長、板本会長、数馬田校長の鏡開きで幕を開け、懐かしい富士見校舎時代の映像が紹介されたほか、釧路の特産品などが当たるビンゴゲームで盛り上がりました。最後には応援歌を全員で歌ったあと、札幌湖陵会の花田孝麿会長（湖陵17期）の音頭による三本締めで閉会、来年の再会を誓いました。

十勝支部

釧中・湖陵同窓交礼会（佐藤文俊会長・湖陵17期）が、3月26日、帯広市内の帯広ワシントンで開かれ、釧路から栗林延次会長、島本幸一幹事長、佐藤文昭会計長も駆けつけ、交流を深めました。

交礼会に参加した同窓生のみなさん

各地の湖陵会

◇東京湖陵会
坂本登会長
〒160-0013
東京都新宿区霞丘町15
日本青年館内
TEL03-3475-2556

◇札幌湖陵会
伊藤拓摩会長
〒004-0843
札幌市清田区北野3条5-28-1
TEL011-885-1565

◇十勝支部
佐藤文俊会長
〒080-0013
帯広市西3条南7丁目14
十勝農業協同組合連合会内
TEL0155-24-4080

◇厚岸くまざさ会
黒田庄司事務局長
〒088-1166
厚岸町松葉町4-42
釧路東部消防組合本部内
TEL0153-52-5111

◇摩周湖陵会
岩崎寛会長
〒088-3465
弟子屈町川湯温泉2-3-7
TEL015-483-2531

誠愛勇から

湖陵8期生の巻

振り向けば五十年 あの日・あの時・あの想い

湖陵八期　高橋武俊

今年は、湖陵高校を卒業後五十年にあたる。その記念として今秋十月十四日（土）同期会、十五日（日）～十六日（月）は、世界遺産に指定された知床への旅行を計画している。

昨年の同期会でのこと、二次会でA氏「○○さんが好きだったんだよな。」と想い出話しを始めると、T氏「実は、おれも好きだったんだ。」と、二人は始めての話に驚き、若き日への想いに心弾むひと時を楽しんでいた。

平素は、なかなか会えないだけに、旅行は意外なことが見つけられるよい機会かも知れない。眠れない夜になることだろう。

実は、我々は昭和十二年五月生まれの美空ひばり、十二月の平尾昌晃と同世代である。共にその時代、時代を乗り切ってきた者同士、歌に励まされ、歌に想いを重ねると懐かしいあの日・あの時・あの想いが浮かんでくる。

昭和二十八年二月二十二日、風雪に耐え先輩たちの汗が沁みこんでいた校舎は、残念ながら焼失。その三日後に、今後に不安を抱えながら高校入試を受けたことが思い出される。

入学式は公民館で行い、我々新入生と三年生は焼失を免れた体育館を間仕切って教室に、二年生は東中学校を間借りしての授業となる。

急造の教室の出入り口は一箇所で、その入口に死んだヘビをぶらさげた者がおり、女子は教室への出入りが出来ず困惑していた。そこは男子、カッコつけたい年頃である。平気な顔で通っていたように見えたが、表情は強張っており、ヤセ我慢をしていたのでは…。

同期生には汽車通の学生が多く、朝は相当早くに食事をして家を出るので、とても昼まで腹は持たず二時間目か三時間目の休み時間に弁当を食べていた。始めは汽車通の生徒だけの早飯であったが、いつしかクラス全員に広がった。早弁も楽しいコミュニケーションの場となった。ただし、早く食べたら早く腹が空くのは当たり前のこと。その対策は十分考えており抜かりはなかった。

二年生になると東中学に通った。昭和二十八年三月までは南中学校（後に弥生中学校として弥生町へ）で、私は最後の卒業生である。

東中から机を持って引越

校舎の傍らにはドングリ林、遠方には太平洋が見える。そこから下へ降りると春採湖。自然に恵まれた落ち着きのある環境であった。中には授業をサボリ、湖へ行った者がいたと聞く。

弟子屈、厚岸、音別、雄別方面からの汽車通学の生徒が沢山いて、駅からカランコロン下駄の音を響かせながら東中学まで歩いて通ったことを、「懐かしい下駄の音が聞こえてくるようだ」と当時を偲んでいる友もいる。

九月には校舎が完成し各々机を持って移転したので、我々が東中学の仮校舎で過ごしたのは実質一学期であった。この東中学時代は二年生だけで先輩もいなかったせいか気持ちも大らかであった。

ある日、教室からうっかりして下駄を履いて玄関まで来たら、そこで待っていたのが、こわーい三太先生。「コラー」げんこつがガツーン。目から火花が…。

質実剛健を育んできた校風には、様々な教育活動が見られる。ウサギ狩りもその一つである。

ウサギとの知恵くらべ

汽車で大楽毛駅へ、全校生徒集合。注意事項を聞いた後、阿寒川の橋を渡って右側の牧場だったと思うが、そこへ入って猟場を囲む。うさぎが囲いから逃げないように一箇所に追い込む作戦である。思い思いの棒を持って指示を待つ。張り詰めた空気が身体に伝わってくる。合図が出る。一斉に棒を振り上げ、ワーッ　大きな声が重なり合い、友達の声が聞きずらくなるほどである。ハッスルし過ぎてスッテンコロリン。時おり必死になって逃げ惑うウサギの姿が見える。囲いは徐々に狭まっていく。ダダーン　ダダーン　散弾銃の音が響き渡る。白い毛が鮮血に染まる。今思えば心が痛む。

休憩時に、ある先生が銃を撃ってみたいとのことで、ハンターの指導を受け銃を構える。ダダーン撃った瞬間反動のため銃が飛び上がった。先生はビックリして顔が青ざめた。周囲にいた者も驚きであった。何事も無く胸をなで下ろしたものである。

2月のウサギ狩り

野球はスポーツの花形 さながら釧路の早慶戦

湖陵高校と江南高校はライバル校で決勝に残ることも多かった。

当時、高校野球は人気があり、市民の関心も高かった。学校の名誉をかけての戦い。期待も大きかっただけに練習も厳しかったことだろう。遅くまでグランドを走り回っている姿をよく見かけたものである。

高校生活最後の野球大会は、湖陵高校と江南高校との決勝となり、球史に残る名勝負であったと記憶している。細かい試合経過は忘れたが、追いつ追われつの好試合であった。応援にも熱が入った。同じクラスの友達が出ているだけに力が入り、奥底から声を張り上げた。選手は最善を尽くしたが江南高校に破れた。両校ナインに惜しみない拍手が起こり、富士見球場に鳴り響いた。

スポーツには応援が付き物。時おり、応援練習がグランドで行われた。練習をサボろうと脇道を通ると、要所要所に応援団員がいて戻される。なかなか成功したことがない。要領が悪かったのかなあ。

ある日　ある時、応援練習に励んでいると、突然ババーンと音がした。「どうした?」全員、音の方に視線が向けられた。何事もなかったようでホットした。当日は炎天下の中での練習で、高く振りおろした帽子のツバが運悪くB君のポケットに当り、ポケットの中で暖められてた火薬（スターターのピストル用火薬）が暴発したのである。

なぜかマラソン完走

もともと長距離走に弱い私としては校内マラソンに辛さだけが残っている。ところが、一度おもしろい出来事が起こった。

当時のマラソンは、確か学校を出て東中学校前を通り、学芸大学、南大通り、波止場入口、日進小学校前を通って学校へもどるコースであったと思う。

ある日・あの時のマラソン。友達と併走していたが、佐野碑園を過ぎた登り坂から息が苦しくなり歩くことにした。順位はどうでもよかったので近道を通り学校前の短い一本道を歩いていると、先生が何を勘違いしたのか、私の手を引いてロープで仕切られた通路へ導き入れた。口をはさむ余地もなくそのままゴールとなった。まあいいか。順位はどうだったか記憶にない。

歳月は、人を待たず、あっという間の五十年であった。あの日・あの時・あの想いは、八期会の証であり、これからも語り合うだろう。

今、第一線で働いている人、趣味活動を楽しんでいる人など様々であるが、この長寿社会の中でどう活き活きと美しく老いるか、その生き方が問われている。

ノンフィクションライター　宇佐美恵子さんは一つの示唆を与えている。

「老いをあるがままに受け入れることが大切である。老いてなお『すごい』と思われる人に共通しているのは、表面的なものでなく、その人が持つ経験の豊かさや、やさしさ、強さ、知恵である。」

年齢を重ねることは、人間の質を磨くことであり、かみしめていきたい言葉である。

画・増子正樹（湖陵20期）

〝校歌雑感〟歌詞の『関十一州』はどこ

昭和38年、希望に胸膨らませ入学して数日後、クラスに先輩の応援団が校歌と応援歌の歌唱指導にやって来た。「新入生諸君、湖陵の校歌や応援歌を知らずして湖陵生を名乗るなかれ。これから3日間、ミッチリ歌唱指導を行う、サボリは許さん」と。校歌は最初から取っ付きにくく歌詞を覚えるのに苦労した。歌詞にルビをふってはいるが、北陲（ほくすい）、神秘（くしび）、閧（こえ）、丈夫（ますらお）、反響（こだま）、曙光（ひかり）、瞻（み）よ、苑（その）、旦暮（あけくれ）、兄弟（はらから）、訓（まこと）など漢文とやまと言葉を織り交ぜ余りにも格調高すぎて高校1年生にとって難解だった。卒業後、作詞者菅原覚也は旧制釧路中学の国語漢文の先生と知って校歌の難解さと格調の高さを納得した。

校歌を覚えたころから歌詞の『十一州』は、一体どこか人に聞く訳にもいかず最近までナゾだった。湖陵卒業後7年を過ぎたころ私は北海道内の地名に関心を覚え、最近になって幕末の探検家松浦武四郎にたどり着いた。武四郎は明治2年に北海道開拓使から命を受け『国郡名建議書』を提出した。武四郎は北海道を11国86郡に分けアイヌ語地名や日本書紀に由来して、それぞれ漢字地名を当てた。国名は石狩（現上川・空知支庁を含む）、天塩、北見、千島（明治8年の千島樺太交換前なので現北方3島）、根室、釧路、十勝、日高、胆振、渡島（現桧山支庁を含む）、後志の11国で現在の14支庁とは異なっている。狩勝峠、石北峠、根北峠などの峠名、トンネル名は旧国名の国境がその由来である。北海道の旧十一国これが歌詞の中の十一州と解明した時、頭の中の霧が晴れ作詞者菅原覚也が身近に現れた。

平成13年に釧路市生涯学習センター主催の『中高齢者いきがい発見』講座の中で私は「難読地名を巡るバス旅行」の講師を務めた。私はバスの車中マイクを握って北海道の地名を色々説明する中で旧11国を取り上げるため湖陵の校歌を歌った。「♪ひーいーづるくーにのほぉくすいにーくぅしーびをけーずーるまーすーらーおーのー」

昼食休憩でバスを降りたら受講者の中に町田康雄元湖陵高校校長ご夫妻がいらして私は思わず赤面した。「同窓生以外の他人が多数を占める所で湖陵の校歌を歌うのはマナー違反、周りから要望のない限り顰蹙を買う、酒の席でありがちだ」とある湖陵先輩からきつく言われていたので。

田巻恒利（湖陵18期）

〝釧路ふるさとカルタ〟

ふるさと釧路をもっと元気づけたい、釧路からの情報発信を強めたい、若い人と足元にある宝を再発見したいと私は日頃から悶々としておりました。釧路市生涯学習センタより市民講座で釧路カルタに読み句作成を手伝って欲しいとの要請に応え参加する機会がありました。市民講座終了後、釧路管内全体の風景やゆかりの人物を取り上げた〝ふるさとカルタ〟を作るため〝釧路ふるさとカルタ協会準備会〟を立ち上げたのは平成14年の秋でした。趣旨に賛同する設立〝呼びかけ人〟に快く応じてくれた地元著名人の古谷達也、辻谷守、石橋栄紀、山田和弘、名畑英一、佐藤宏の湖陵諸先輩には改めて御礼申し上げます。

準備会の会合を重ね平成15年6月に〝釧路ふるさとカルタ協会〟を発足し7月に読み札募集のチラシ5万枚を釧路管内の全小中学校などに配布したところ、締め切りの10月末まで予想以上の3千句を越える応募があり地域あげての熱意が届きました。選考会議を重ね翌16年3月まで88句を選びマスコミに発表し絵札の制作に着手。平行して解説文の考案、カルタなど印刷物のキャッチコピーや文案の考案、校正作業という困難にして初めての経験ができました。昨17年1月あしかけ4年を経て〝釧路ふるさとカルタ〟が完成しました。3千部発行し千5百部を釧路管内の小中学校全学級、図書館、公民館などに寄贈できました。カルタの印刷は藤田印刷の藤田卓也社長、販売は道内最大手書店リライアブルの佐藤俊晴社長にご協力して頂き、気が付けば2人は私と湖陵の同期のご縁です。また湖陵出身とは知らずにご協力を得た方々にも、この紙面を借りて御礼申し上げます。

地元マスコミのご協力を得たカルタ大会も保護司会や釧路市生涯学習センタと共催で3回を数え毎回何百人の人で賑わっています。目標は群馬県ぐるみの伝統行事『上毛（じょうもう）カルタ』です。数年後「釧路の小学校を出て〝釧路ふるさとカルタ〟を知らない人はモグリだ」と話題になれば幸甚です。なお〝釧路ふるさとカルタ〟の問い合わせ先、購入希望（定価2千5百円、送料込）は本紙巻末の『くまざさ編集委員会』と同じです。

釧路ふるさとカルタ協会会長
田巻恒利（湖陵18期）

市内では「ふるさとカルタ」大会が行われています

学園だより

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。

「くまざさ」49号発刊に当たり、昨年からの学校の様子を簡単にお伝えします。

4月、宿泊研修で行われた「人間関係作り」（1年生）

〈9月〉

・統一学校説明会。本校体育館を会場にして、道内外約70の大学・短大などが参加し、行われました。各大学のブースに積極的に足を運び熱心に質問する生徒の姿が見られました。昨年度は第3回目で、今年も9月に第4回が予定されております。地理的・経済的要因で容易にオープンキャンパスに参加できない生徒達に少しでも大学の「生」の姿を感じ取って欲しいと思い企画されました。一つの高校が主催して、このような規模の説明会を開催する例は全国でもほとんど無いそうです。

〈10月〉

・見学旅行。2班編制で1日ずらして出発します。昨年のコースや日程は次のようになっております。

1日目　飛行機で一気に関西へ。その日は奈良泊。

2日目　奈良見学の日です。

3日目　京都自主研修の日です。

4日目　朝、新幹線で京都を出発し東京へ向かい、東京自主研修を行いました。

5日目　朝早く東京ディズニーランドへ、バスで向かいました。半日ディズニーランドを楽しんだ後、羽田空港へ向かい釧路に夜到着しました。

以上、現在の2年生はだいたいこのような日程で見学旅行を行ってます。

〈1月〉

・センター試験。今年は新課程入試の初年度です。例えば英語では、リスニング試験が新しく導入されたり、どのような入試になるのか不安な中、２００名を超える生徒が受験しました。80パーセント以上の私大がセンター試験に参加している現在、私大専願者でもセンター試験を受けるのは常識となっています。

〈3月〉

・第56回卒業式。３１０人の生徒が湖陵の誇りと、夢を胸に学窓を巣立ってゆきました。

今回の卒業生の進学実績は、国公立大現役合格者が１５９名、私大は１８５名でした。大変よく健闘したといえます。

・山本教頭を始め8名の教職員が異動で離任しました。湖陵高校のために力を尽くしていただき、どうもありがとうございました。

〈4月〉

・田中教頭を始め7名の着任教職員を迎えました。

・平成18年度入学式（新入生２８１名）

・宿泊研修（1年生、川湯温泉御園ホテル）

現在、修学旅行とは1年次の宿泊研修と2年次の見学旅行を合わせたものを言います。宿泊研修の内容をご存じない皆様のために簡単に日程を説明します。

1日目　貸し切りバスで到着後午後から全体学習会（英語・数学）夕食後全体会（自己理解）

2日目　午前は全体学習会（英語・数学）その後、場所を摩周観光文化センターに移し、午後から全体会（校歌練習・人間関係作り・リクレーション）ホテルに戻り夕食後全体会（進路について・ホームルーム）

3日目　午前全体会（交通安全について）最後に研修の成果として校歌を、お世話になった社長（根津文博さん・湖陵15期）やホテルのスタッフに披露し川湯を出発しました。

このように湖陵生として、勉強のしかたや仲間作りを寝食を共にして学ぶ場が宿泊研修です。

・湖陵の日（4月29日）ＰＴＡ総会と授業公開を併せ、休日に行われております。多くの父母の皆様に参加いただきました。

〈5月〉

・教育実習（13名の卒業生を迎えました。）

・高体連釧根支部予選始まる。（別表）

〈6月〉

・高体連全道大会始まる。全道大会においては各クラブともよく健闘しました。特に陸上部は女子４×１００ｍリレーと女子４×４００ｍリレーの2種目で8月から始まる大阪でのインターハイに出場します。

・ＰＴＡ懇親会　今年からの企画ですが、キャッスルホテルにて１００名を超える父母と教職員が集まり交流を深めました。

〈7月〉

・湖陵祭

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによろしくお願いします。

渋谷倫之（湖陵26期）

平成18年度主な高体連支部・全道大会の結果

柔道	支部	男子５名女子１名が全道大会へ
ハンドボール	支部	男子優勝、全道大会へ
登山	支部	男子、全道大会へ
剣道	支部	男子団体戦優勝、全道大会へ
弓道	支部	男子団体戦優勝、全道大会へ
サッカー	支部	全道大会へ
バスケットボール	支部	男子、全道大会へ
テニス	支部	女子団体戦、全道大会へ
陸上	全道	女子4×100Mリレー　釧根新記録で全国大会出場へ
		女子4×400Mリレー　釧根新記録で全国大会出場へ
放送局	支部	ＮＨＫ杯コンテストのラジオドキュメント部門で全道大会へ

総会当番期より

昭和57年に卒業して以来、早いもので24年が経ちました。当時20歳前だった若者は四十路を過ぎるまでに成長し、無事、巷で言われる「おじさん」、「おばさん」族、いやナイスミドルの仲間入りを果たしました。

そんな矢先、どこからともなく湖陵高校同窓会当番期の話が・・・。この前の当番期から、もう十年が経ったのかと、薄れつつある自分自身の記憶を思い起こしながら、口伝で同期メンバーの招集を開始しました。

第34期の卒業生は、わりと地元への定着率がよろしいようで、意外や意外、20名を超える名前があがってきました。その中には、現役の湖陵高校の先生をはじめ、会社役員、サラリーマン、主婦など、様々なステータスの持ち主が集まっており、皆さんの快いご返事にも助けられながら、大変、スムーズな幹事会の立ち上がりを迎えました。

当番期は今回が2回目となりますが、前回の当番期は10年前。よく十年一昔と言われるように当時の記憶は薄く、加えて前回は、何をどうするのか右往左往の連続。ただ先輩の皆様の指示通りに動いていたということもあり、今回がほぼ初体験という状況。このような時に先輩の皆様の適切なアドバイスはまさに天の声。声をかけていただいた先輩の皆様に、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

幹事会では、最初のうちは集まるメンバーの顔にも硬い表情が見え隠れしていましたが、そこは、同期という見えざる力の効力か、回を重ねるうちに意思疎通が活発となり、不思議な一体感が醸成される中、メンバー一人ひとりの個性も現れはじめ、のんびりではありますが和気藹々と同窓会開催の準備を始めています。

とは言いながらも、代々続く湖陵高校同窓会。時計の針が永遠の時を刻むがごとく同窓生を輩出し、その時が刻まれるがごとく伝統も刻まれ続けています。この度の同窓会の開催が、伝統という時の刻みを次代へ伝えていく一助となるよう、残された期間を全力で頑張りたいと思います。

幹事　松本　敦（湖陵34期）

携帯ストラップ 総会で販売

8月12日の同窓会総会で、湖陵高校の携帯ストラップを販売します。同窓会と学校との話し合いの中で、製作することを決めました。ストラップには湖陵を示す「誠愛勇」の文字がしっかりと書かれています。これを揮毫したのは、男澤哲夫先生です。男澤先生に書道を習った同窓生もたくさんいらっしゃるでしょう。懐かしい男澤先生の書を、常に見ながら携帯しましょう！1本1000円です。札幌湖陵会では用意した180本が完売しました。ぜひ釧路でも完売をめざしたいと思いますので、ご協力をお願いします。

男澤先生の揮毫が入った携帯ストラップ

編集後記

ひさしぶりに晴れた休日、暖かい日差しに誘われ高台の市立図書館へ向かった。いつも車で通る道を避け川風に吹かれながら幣舞橋をゆっくりと歩く。出世坂は今、新緑の並木がトンネルを作り、じつに爽やか迎えてくれる。

さすがに頂上に着くころには息が切れ学生時代、重いカバンを抱え、かけ足で富士見の校舎に通った頃とはずいぶん違う自分を感じてしまう。四十数年の時の流れを実感すると共に当時の事をなつかしく想い出す一日になった。

我らが湖陵高校は一世紀の歴史へ向け、いよいよ最後の秒読み段階に入ろうとしている。同窓会役員、幹事の百周年事業にかける思いがひしひしと伝わってくる昨今くまざさ編集委員会も身のひきしまるのを感じずにはいられない。

さて、今号の発行を待たずに今年5月桜芽吹く頃、創刊号から活躍された上岡信明編集顧問（釧中30期）が逝去されました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

また今回、くまざさ編集長・顧問、釧中物語の筆者として健筆をふるわれた奥田達也氏（湖陵1期）もまだお元気にもかかわらず『老兵は死なず、ただ消えさるのみ！』の言葉を残して一線を退き後進に道をゆずられる事となりました。長い間のご尽力に感謝を申し上げて筆を置きます。

増子正樹（湖陵20期）

写真左から
増子正樹、星　匠、田巻恒利、
渋谷倫之

釧路湖陵高校
〒085－0814
釧路市緑ケ岡3丁目1番
TEL（0154）43－3131

くまざさ編集委員会

同窓会会長　栗林延次（湖陵17期）
同窓会幹事長　島本幸一（湖陵19期）
同窓会会計長　佐藤文昭（湖陵22期）
編集委員長　星　匠（湖陵30期）
編集委員　渋谷倫之（湖陵26期）
編集委員　増子正樹（湖陵20期）
編集事務局長　田巻恒利（湖陵18期）

◎新編集委員紹介
（湖陵11期・釧路教職員湖陵会18代会長）
川端紀一さん

くまざさ編集委員会
〒085－0014
釧路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154（23）0241
手動切替FAX
0154（23）0242